

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	56人	算数	56人	理科	56人
第5学年	国語	40人	算数	40人	理科	40人

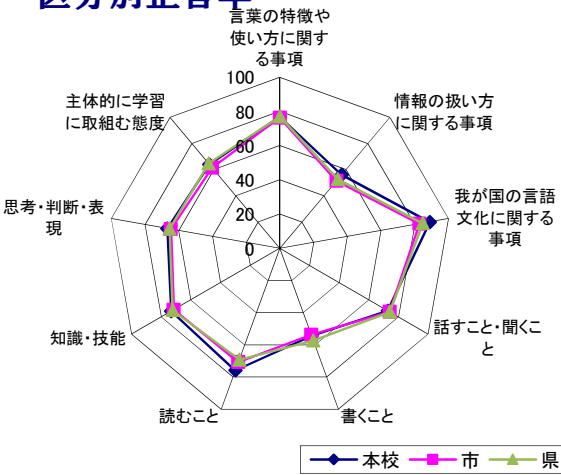
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	76.9	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	56.2	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	88.9	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	72.8	74.1	74.2
	書くこと	54.3	53.7	57.2
観点	読むこと	75.9	70.7	69.2
	知識・技能	73.3	71.6	72.3
	思考・判断・表現	66.7	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	64.1	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

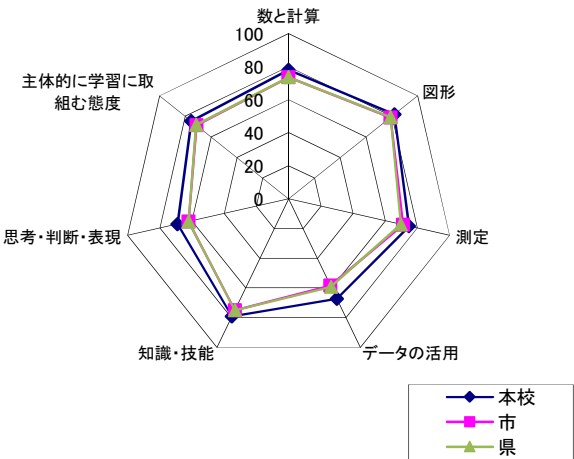
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県や市の平均とほぼ同じである。 ○漢字の読む、書く問題では、正答率が県や市の平均とほぼ同じであり、既習の漢字がおおよそ身に付いていると考えられる。 ●ローマ字で表記されたものを読む問題では、県の平均より13ポイント下回っており、ローマ字の読み方の理解が十分ではないと考えられる。	・情報教育と関連付けて、ローマ字入力によるパソコンの活用をするなど、日常的にローマ字に触れる機会を増やす。 ・朝の学習や家庭学習などを通して、ローマ字の学習を継続していく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、県や市の平均よりやや高い。 ○国語辞典の使い方の問題では、県や市の平均より上回っており、国語辞典の使い方を理解していると考えられる。 ●情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書く問題では、正答率が31.5%と低く、県の平均より3ポイント低い。条件に合わせて書く力が身に付いていないと考えられる。	・総合的な学習や社会科など、調べたことをまとめる活動を通して、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書く経験を積む場を意図的に設定していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○漢字のへんやつくりを選ぶ問題では、県の平均を4.2ポイント、市の平均を6.1ポイント高く、漢字の部首についてはよく理解していると言える。	・引き続きスキルの活用、朝の学習、家庭学習などを通して、漢字の学習を継続していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県や市の平均より低い。 ○話の大まかな内容を聞き取る問題は、県や市の平均とほぼ同じであり、聞き取る力は身に付いていると言える。 ●相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら書く問題では、県や市の平均より4.5ポイント低く、自分の意見と理由を挙げながら話す力が十分ではないと考えられる。	・国語の時間を中心に、各教科の教科の学習や様々な活動の中で、効果的な質問の仕方や的確に意図を伝える話し方について確認しながら経験を積んでいけるようにする。 ・発表する際には、自分の考えを理由を挙げながら話すことを意識するよう指導していく。
書くこと	平均正答率は、県の平均より低い、市の平均とほぼ同じである。 ○文章を指定された長さで書く問題では、正答率が、県の平均を2.4ポイント高く、自分の考えを明確にして書く力が身に付いていると言える。 ●調べたことを文章にまとめる問題では、県の平均を16.9ポイント低く、集めた材料を比較分類して、伝えたいことを明確にする力が十分ではないと考えられる。	・対話的な活動を授業の中で積極的に取り入れる。 ・国語の文章を書く活動や日常的な日記等の指導において、段落構成を意識して文章を書く経験を積ませる。 ・新聞やリーフレットを作る活動などを通して、調べたことを分かりやすく伝える力を身に付けさせる。 ・自ら書きたいと思うような活動を各教科の中で取り入れる。
読むこと	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○物語の場面の様子や登場人物の気持ちを読み取る問題、説明文の内容を読み取る問題の正答率は、県の平均より高い。 ●説明文の段落の内容を捉える問題では、県や市の平均は上回っているが、正答率は48.1%と低く、段落のつながりを捉える力が十分ではないと考えられる。	・説明文では、文章にあげられた事例の他にどのような事例があるか考えたり、実際に他の事例を挙げて類似の文章を書いたりすることで理解を深める活動を取り入れる。 ・文の構成について復習し、主語と述語の関係を確認するとともに、文章を読み取る活動においても、主語と述語の関係を正しく読むことを意識して指導していく。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	78.0	73.5	73.6
	図形	82.1	79.0	79.1
	測定	74.8	71.1	69.8
	データの活用	67.3	58.4	59.2
観点	知識・技能	79.1	75.0	75.0
	思考・判断・表現	69.0	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	75.4	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

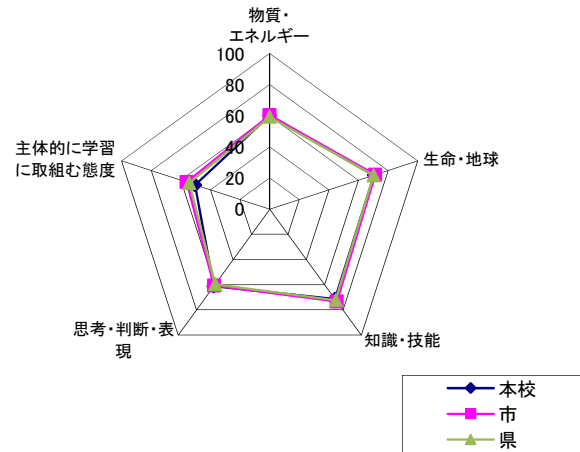
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	校内平均正答率は、市の平均より高い。 ○2けた÷1けたのあまりのないわり算や少数のしきみの理解についてはどちらも校内正答率が100%である。コース別学習で、反復練習や個別指導を充実させた成果と思われる。 ●2桁×2桁の計算とかけ算の筆算に出てくる数の意味の理解について課題が見られる。	・今後もコース別学習で、反復練習や個別指導を充実させ、つまづきが見られた時には、その場で指導にあたれるようにしていく。 ・かけ算の筆算を行う際には、ただ単に計算するのではなく、説明し合う学習を取り入れることによって、どのような仕組みで計算をするのかを理解できるようにする。
図形	校内正答率は、市の平均より高い。 ○どの問題も県の平均正答率より上回っている。 ○円の半径、球の半径、正三角形の作図については、おおむね理解している。 ●基本的事項や作図の定着に一部課題が見られる。	・朝のステップアップや少人数の指導など個別の支援を行い、基礎的な事項の定着を図る。 ・今後の図形の学習の際、3年生の復習を取り入れながら学習を進める。
測定	校内平均正答率は、市の平均と比べると高いが、他の領域と比べると正答率が高いとは言えない。 ○果物の重さの求め方については、市の平均正答率と比べて16.6ポイント高い。実際にはかりを使った操作活動を行った成果であると思われる。 ●時間や長さ、重さの単位の概念に課題が見られる。	・今後も、操作活動を多く行うことにより、目盛りの読み方の定着を図る。 ・単位の概念については、日常生活や他教科と関連を図り、繰り返し取り上げるにより、身に付けさせる。
データの活用	校内平均正答率は、市の平均より高い。 ○校内平均正答率が、市の平均と比べると高いが、他の領域と比べると正答率が高いとは言えない。 ●1つのグラフの数値を読み取ることはできるが、2つのグラフを比べて関連付けて考えたり、何を問われているかを理解して、答えを正しく表現したりすることに課題が見られる。	・算数の授業だけでなく、他の教科とも関連させて、表やグラフを読み取り、考察したり、見出したことを表現させたりする。 ・発展的な問題についても、積極的に取り組ませていく際には、対話的な学習を意識して、理解が深まるようにする。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	60.1	60.2	59.2
	生命・地球	70.5	71.3	70.3
観点	知識・技能	71.4	73.4	72.3
	思考・判断・表現	61.2	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	50.4	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○磁石や糸電話など実験を通して理解したものは、定着が図れている。 ○磁石の極を確かめる方法を構想する問題は正答率70.4%で、市の平均正答率が56.8%を、大きく上回っている。その他の活用問題も、市の平均正答率を上回っている問題が多い。 ●電気を通す物質と、磁石につく物質を区別することに課題が見られる。	・実験の結果や考察を自分の言葉でまとめる活動を繰り返し行うことで、説明する力や質問の意図を捉える力を育てる。 ・実験を通して体験したことは、多くの児童が定着しているので、引き続き実験を取り入れていく。 ・電気を通す物質や磁石につく物質を確認し、復習するとともに、磁石や磁力を応用したものなどにも発展させて考える力を育てる。
生命・地球	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○太陽の動き方から、影の位置を推測する問題は正答率55.6%で、市の平均正答率が43.1%と、大きく上回っている。その他の活用問題も、市の平均正答率を上回っている問題が多い。 ○実験を通して理解したものは、定着が図れている。 ○平均正答率が90%を超えている問題がある。 ●虫めがねの正しい使い方の問題は正答率38.9%で、市の平均正答率が55.6%と、下回っている。	・虫めがねの正しい使い方は習得が不十分であったので、授業の中の使う場面ですの都度正しい使い方を指導していく。 ・日なたと日かげの地面の温度の変わり方について復習し、確認する。 ・単元ごとに確認テストを行うなどして、単元の基礎的内容を着実に身に付けられるようにする。 ・グラフから推測したり、考察したりする学習を取り入れる。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習に関する質問の肯定割合は「家で、学校の授業の復習をしている」70.4%、「家で、テストで間違えた問題について勉強している」70.4%と県や市の平均を上回っている。また、「学校の授業以外に一日どれくらいべんきょうしますか」についても県や市の平均よりも高く、意欲的に学習している児童が多かった。家庭学習について継続して指導し、さらにより良い習慣を身に付けさせたい。

○「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」59.3%、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」81.5%、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」81.5%が県や市の平均を上回っている。学習に対して主体的に取り組み課題を解決しようと取り組んでいる児童が多く、自己肯定感が高いことが伺える。今後も自信をもって学習や活動に取り組んでいけるよう支援していきたい。

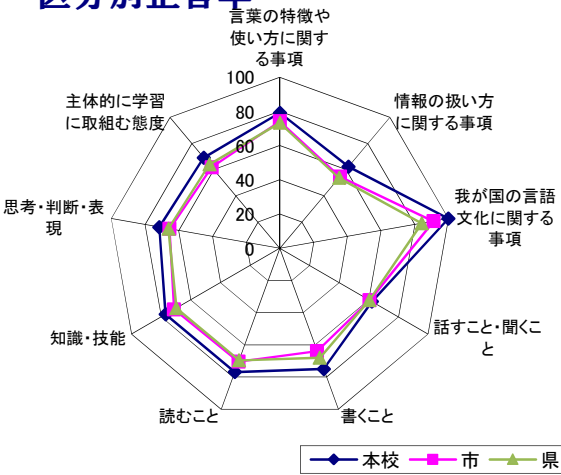
●「1か月に、何さつくらい本を読みますか」の質問について県や市の平均よりも読んでいる冊数が少なく、平日に本を読んでいる時間も少ない。図書館司書とも連携を図り、図書の紹介など、児童が進んで読書に取り組めるような支援をしていきたい。

●「1日当たりどれくらいの時間、けい帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」の質問には、4時間以上と回答する児童が7.4%いるなど、長時間使用している児童が見られた。また、「一日にどれくらいの時間、すいみんをとることが最も多いですか」の質問では、すいみん時間が8時間に満たない児童も多くおり、保護者の協力を得ながら、生活習慣の改善に努めていきたい。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	79.2	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	62.4	54.7	53.8
	我が国の言語文化にに関する事項	100.0	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	62.1	60.6	60.4
	書くこと	75.0	63.8	68.0
	読むこと	76.9	70.4	69.6
観点	知識・技能	77.1	71.3	69.9
	思考・判断・表現	71.5	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	69.2	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

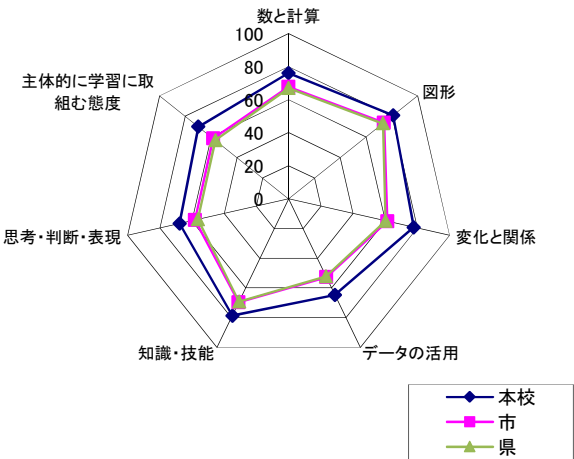
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○漢字の読む、書く問題では、全ての問題で正答率が県や市の平均を上回っており、基礎基本の定着が図られていると考えられる。 ●連体修飾語の問題では、正答率が県の平均より3.5ポイント低く、修飾語の意味や使い方の理解が十分ではないと考えられる。	・言葉の学習の小単位の中で着実に身に付けられる工夫をしていく。 ・朝の学習、家庭学習を通して、文の構成の学習を継続していく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、県や市の平均よりやや高い。 ○漢字辞典の使い方の問題では、県や市の平均より高く、漢字辞典の使い方を理解していると考えられる。 ●情報と情報との関係について理解し、段落相互の関係を捉える問題では、正答率が県や市の平均を上回っているが、43.6%と低く、段落相互の関係を読み取る力が十分ではないと考えられる。	・読み取りを中心とした学習においても、段落の構成に着目し、段落の構成や相互関係などについて、理解を深められるようにする。 ・文章を書く活動において、段落構成を意識して、文章を書く経験を積ませる。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○ことわざの問題では、正答率が100%であり、ことわざの意味を理解し、正しく使えていると言える。	・朝の学習、家庭学習などを通して、ことわざ、慣用句の学習を継続していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○話し方の工夫に注意して聞く問題では、県や市の平均より高い。 ●話の中心に気を付けて聞き取る問題では、県の平均を6.1ポイント、司会の役割になって参加者の発言の相違点に着目して考えをまとめたりする問題では、県の平均を1.8ポイント低い。	・話合いの進め方やルール、司会者の役割などについて復習し、確認する。 ・どの児童にも輪番で司会を担当させることで、実践の中で話合いの進行の仕方や、意見のまとめ方などについて学ぶ機会を増やす。 ・対話的な活動を授業の中で積極的に取り入れる。
書くこと	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○資料を適切に読み取り、条件に合わせて書く問題では、正答率が、県の平均より高い。 ●読み取ったことに対しての自分の考えを明確にして書く問題では、県の平均より1.1ポイント低い。	・作文や感想文、学習の振り返りを書く活動など、自分の考えを文章化する機会を多く取り入れる。 ・読書や、わからない言葉を進んで調べることを通して、語彙力を高める。
読むこと	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○物語の場面の様子や登場人物の気持ちを読み取る問題、説明文の内容を読み取る問題の正答率は、県の平均より高い。 ●説明文の段落の相互関係を捉える問題では、県や市の平均は上回っているが、正答率は43.6%と低い。	・説明文では、段落の要点をまとめたり、段落相互の関係を的確に捉えたりできるように読み取りを進める。 ・文章を書く活動において、段落を意識して書くように指導していく。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	76.2	67.8	67.0
	図形	81.1	73.9	73.1
	変化と関係	77.8	61.4	60.2
	データの活用	64.7	52.7	52.1
観点	知識・技能	78.6	69.7	69.2
	思考・判断・表現	67.8	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	70.0	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

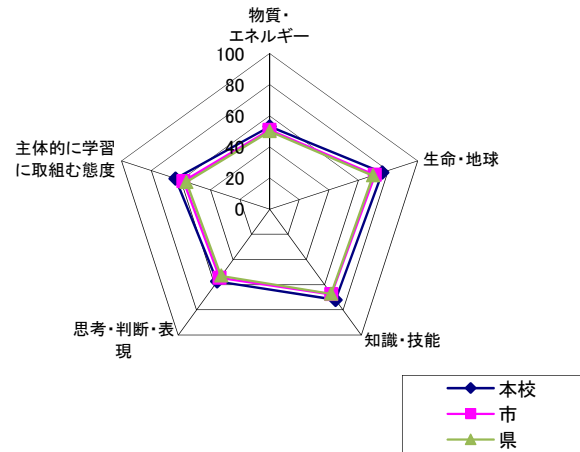
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	校内平均正答率が、市の平均より高い。 ○少数や分数の計算がよくできている。コース別学習で、反復練習や個別指導を充実させた成果と思われる。 ○簡単な場合についての割合がよく理解できている。問われている内容について、図に表す活動を授業の中で日常的に取り入れた成果と思われる。 ●概数の対応をする数の範囲の理解に課題が見られる。	・今後もコース別学習で、反復練習や個別指導を充実させ、つまづきが見られた時には、その場で指導にあたるようにしていく。 ・データの活用などと絡めて、数直線を自ら作図したり、他教科と関連付けて統計データを積極的にまとめさせたりしていく。
図形	校内正答率が、市の平均より高い。 ○どの問題も県の平均正答率より上回っている。 ○分度器の目盛りの読み方やひし形の作図の仕方がよく理解できている。 ●面積の計算はできるが、自分で広さを想像して面積を求めることに課題が見られる。	・朝のステップアップや少人数の指導など個別の支援を行い、基礎的な事項の定着を図る。 ・5年生の体積の学習の際には、4年生の面積の学習の復習を取り入れながら進める。 ・面積の大きさについての感覚を身に付けるために、身の回りにある面積を実際に調べ、日常生活と結びつける。
変化と関係	校内平均正答率が、市の平均と比べると高い。 ○伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求めることがよくできた。 ○割合を比較してどちらの包帯がよくのびるのかを説明する問題の正答率は、市の平均正答率より21.6ポイント高い。全般的に高いポイントを得ることができたのは、答えを求めるだけでなく、考え方を説明する活動を積極的に取り入れた成果だと考えられる。	・今後も、答えを求めるだけでなく、考え方を説明する活動を積極的に取り入れていく。 ・第4学年に引き続き、第5学年の学習でも取り上げられる内容なので、さらに理解を深めていく。
データの活用	校内平均正答率が、市の平均と比べると高いが、他の領域と比べると正答率が高いとは言えない。 ○1つのグラフの数値を読み取ることはできた。グラフの作成を自分で繰り返し行った結果、目盛りの読み方の定着が図れたと考える。 ●2つのグラフを比べて関連付けて考えたり、何を問われているかを理解して、答えを正しく表現したりすることに課題が見られる。	・算数の授業だけでなく、他の教科とも関連させて、表や折れ線グラフ・棒グラフなどを読み取り、考察したり、見出したことを表現させたりする。 ・発展的な問題についても、積極的に取り組ませていく際には、対話的な学習を意識して、理解が深まるようにする。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	53.0	50.8	50.0
	生命・地球	76.1	71.1	69.8
観点	知識・技能	72.0	67.6	67.2
	思考・判断・表現	57.4	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	63.6	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均より高い。 ○電車の暖房と冷房の吹き出し口の位置が異なる理由を説明する問題の正答率は56.4%で、市の平均正答率が43.8%と、大きく上回っている。 ●押し縮めても水の体積が変わらないことを他の場面に応用する問題の正答率は30.8%で、市の平均正答率の40.4%より低い。 ●水のすがたについての問題の正答率は59.0%で、市の平均正答率の63.6%より低い。	・授業の中での実験結果の理解にとどまらず、学習した内容が日常生活の中でどのように応用されているかを考えるなどして、発展的に思考する力を育てる。 ・温度による物質の体積の変化や水の形態の変化について復習、確認する。
生命・地球	平均正答率は、市の平均より高い。 ○季節ごとの動物の違いの問題の正答率は94.9%で、市の平均正答率が80.4%と、大きく上回っている。 ○星座の時間経過による位置関係と動きの問題の正答率は82.1%で、市の平均正答率が70.8%と、大きく上回っている。 ○平均正答率が90%を超えている問題がある。 ●方位磁針の正しい使い方の問題の正答率は30.8%で、市の平均正答率の39.2%より低い。	・方位磁針の正しい使い方は、習得が不十分であったので、授業の使う場面でその都度正しい使い方を指導していく。 ・さらに発展的な学習の展開を工夫したり、児童の興味・関心に応じた探求的な学習内容を取り入れたりしていくことで、さらに活用力を育てる。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習の取り組み方に関する肯定的回答の割合は、「家で、学校の授業の予習をしている」が77%、「家で、学校の授業の復習をしている」が87.2%、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分考えた勉強をしている」が76.9%とそれぞれの回答で県や市の平均を大きく上回っている。また、平日や休日の勉強時間に関する質問に関しても、学年の目標時間である1時間を超えている児童が平日で84.6%、休日で74.4%と多くの児童が家庭学習の定着が図れつつある。今後も家庭と連携を図りながら、家庭学習に対する意欲継続と更なる充実を目指していきたい。

○「毎日の生活が充実していると感じている」と肯定的回答している児童は97.4%と市や県の平均を10%程度上回っており、ほぼ全員が日頃の学校生活に充実感を感じていることがうかがえる。また、「人と話すことは楽しい」と肯定回答している児童も97.4%と友達との関係も良好であることもうかがえる。今後も、友人関係も含めて学校生活が楽しいと感じられる気持ちを持続できるよう支援していきたい。

●「学校のきまりを守っている」という設問に対する肯定的回答が74.4%と市や県の平均を下回っている。児童会活動も交えて学校のきまりやルールを再確認するとともに、児童がしっかりときまりを意識し守っていけるように継続して指導していきたい。

●「次の教科のどの学習は好きですか」の質問の中で、社会のみ肯定的回答の割合が低い。しかしながら、「次の授業の内容がよく分かりますか」という質問の中では、社会の肯定的回答の割合は市や県の平均を上回っているため、引き続き、教科の特性を捉えた楽しく分かりやすい授業を実践していきながら個人差に応じた指導を工夫していきたい。

宇都宮市立宮の原小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるまとめ・振り返り充実	授業の最後にまとめや振り返りの時間を確保し、本時のめあてに沿った振り返りを、一人一人がノートに言葉で書く時間を設けている。	「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、4年生・5年生ともに市・県の平均より高くなった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習の手引き」や「家庭学習カード」を活用したり、年間3回「家庭学習強調週間」を実施したりし、家庭と連携して目標時間や内容を意識した家庭学習の習慣化を図っている。	「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、4年生・5年生ともに市・県の平均より高くなった。また、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、4年生・5年生ともに市・県の平均を上回り、とくに5年生が市の平均回答率より15ポイント以上高かった。
対話的な活動から学びを 実感できる学習活動の工夫	「自分の思いや考えをもつ子ども」「進んで伝え合い、学び合う子ども」の育成を目指し、対話的な活動を積極的に授業に取り入れている。	「グループなどの話し合いに自分から積極的に参加している」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、4年生・5年生ともに市・県の平均より高くなった。また「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、4年生で市・県の平均より高くなった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基礎的・基本的な学習内容については比較的よく身に付いているが、発展的・応用的な問題に対応する力が弱い。	単元のまとめの時間等を生かした学習内容の充実	各教科の各単元におけるまとめの時間等で、発展的な応用問題を積極的に取り上げていく。 習熟度別学習の機会を生かして、児童が意欲的に発展的な問題に取り組めるような機会を増やす。 AIドリル等を有効に活用していく。